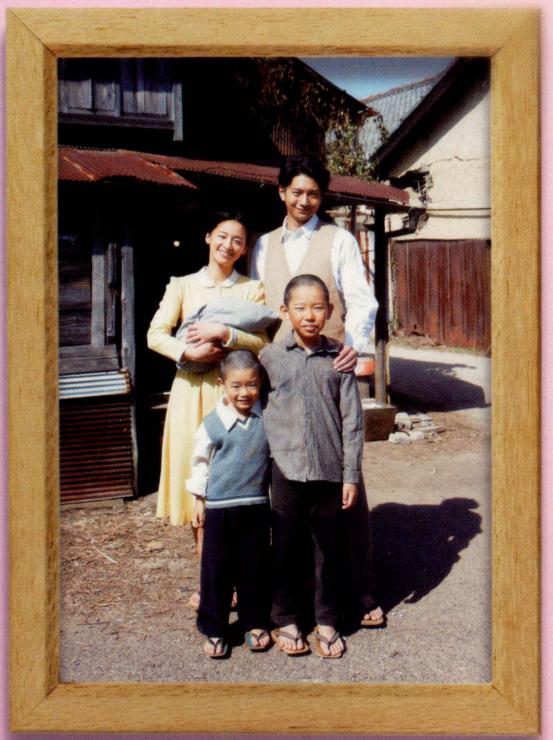


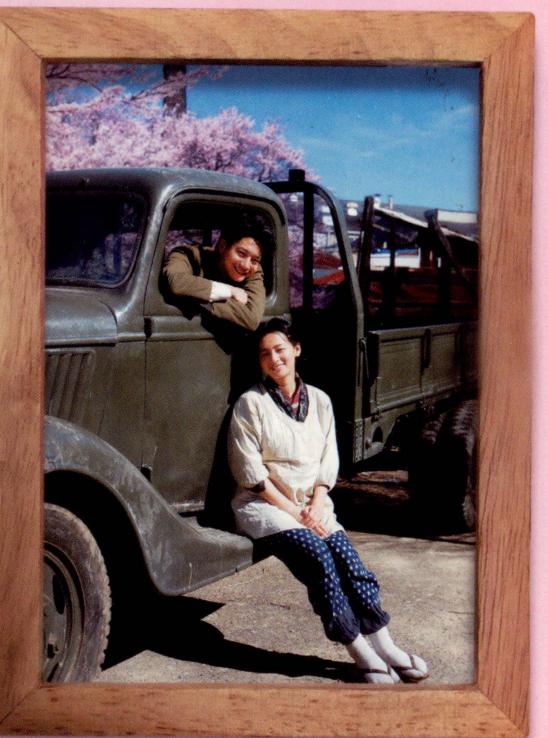
どんなに貧しくても、父ちゃんとなら、笑顔で乗り越えられた——。



朋子 23歳・吾郎 33歳 南京  
(結婚1年目)



朋子 32歳・吾郎 42歳 福島・棚倉  
(結婚10年目)



朋子 30歳・吾郎 40歳 茨城・恋瀬村  
(結婚8年目)



朋子 81歳  
(結婚59年目)

戦中から現代へ——。親から子、子から孫へ受け継がれる、ある家族の“愛の実話”。

6月24日(土)全国ロードショー

映画オリジナル12色クレヨン付

ムビチケカード ¥1,400(税込) 絶賛販売中! ※数量限定／一部劇場を除く



いつまた、君と  
何日君再来

ホーリー ジュン ザイライ  
岸本加世子 駿河太郎 イッセイ尾形 成田偉心／野際陽子  
尾野真千子 向井理  
原作:芦村朋子「何日君再来」 企画:向井理 監督:深川栄洋 脚本:山本むつみ 音楽:平井真美子  
主題歌:「何日君再来」高畠充希 (ワーナーミュージックジャパン) ノベライズ:「いつまた、君と～何日君再来～」(朝日文庫刊)  
製作:村田泰邦 小野田丈士 堀義貴 山本重二 市村友一 堺祐一郎 間宮弘志  
企画・プロデュース:松本塾 宇田川隼 プロデューサー:大畑利久 柴原祐一 成瀬俊樹  
撮影:石井浩一 照明:樺原敦貴 錄音:林大輔 美術:三ツ松元いこ 装置:須坂文昭 編集:阿部亘美 衣装:張清賢子 ヘアメイク:吉野節子  
スクリプター:川野恵美 音響効果:森脇昌利 キャスティング:原田信 資助監督:速藤健一 島田伊智郎 製作担当:相川真哉 ラインプロデューサー:瑠璃林太郎  
製作プロダクション:ダブ 配給:ショウゲート 製作:情報堂DYミーティング&ビューティーズ ホリプロジーンシード ホーリー テレビ朝日 朝日新聞社 BS朝日 東映ビデオ  
2017「いつまた、君と～何日君再来～」製作委員会 itsukimi.jp

企画 向井理 × 演 尾野真千子 × 脚本 山本むつみ × 監督 深川栄洋  
戦後の混乱期、日本を支えたのは「普通の暮らし」を生きた人々だった——。

# 俳優・向井理の祖母の手記を映画化! 戦後を生きぬいたすべての家族の物語。



主演に尾野真千子をむかえ、向井理と初の夫婦役を演じ、岸本加世子・駿河太郎・イッセー尾形・野際陽子など名優が出演!

俳優・向井理が祖母の卒寿(90歳)のお祝いに、家族や親せきと自費出版して贈った祖母の手記を、向井自ら映画化に向け7年の歳月をかけて企画してきた意欲作。

主演である、祖母・芦村朋子役には尾野真千子。向井自身は、祖父・吾郎役を演じ、ふたりは夫婦役としては初共演となった。

さらに、朋子と吾郎の末娘である現代の真美役を岸本加世子、吾郎の先輩・高杉幹夫役に駿河太郎、朋子の父親・芦村忠役にイッセー尾形、現代の朋子役を野際陽子が演じるなど、演技派の名優たちが脇を固める。また、大学生の“理”役は、新人俳優・成田偉心が起用された。

脚本は、向井理の俳優としての転機となったNHK連続テレビ小説「ケケケの女房」の脚本家、山本むつみ。同ドラマの撮影終了後、

向井が直接原作を手渡し依頼したことで実現した。監督には、「60歳のラブレター」(09)など、実話をもとにした物語を織細かつ丁寧に演出し、味わい深い作品を残してきた深川栄洋。

戦後70年を越え、想像をはるかに上回る急成長を遂げてきた日本。こうした背景には、映画にもドラマにもならなかった人々の生活があった。「いつまた、君と～何日君再来～」は、特別な人の稀有な逸話ではなく、ごくごく普通の暮らしを懸命に生きてきた人々の物語である。だからこそ、いま、伝えておかなくてはいけない、知っていてほしい大切なメッセージが詰まっている。

現代の私たちの心をも揺さぶるに違いない、すべての日本人へ捧げる、あなたの家族の物語――。



不器用だけれど明るく生きる、実在の夫婦と家族の姿を通して、日本人のたくましさ、誠実な生き方を描く、愛の実話。

81歳になった芦村朋子は、不慣れな手つきでパソコンにむかい、亡くなった夫・吾郎との思い出を手記として記録していた。しかし、朋子は突然病に倒れてしまう。

そんな朋子の代わりに、孫の理が「何日君再来」と題された祖母の手記をまとめていくことに。

綴られていたのは今まで知ることのなかった、戦中・戦後の困難な時代を生きてきた祖母・朋子と祖父・吾郎の波乱の歴史と、深い絆で結ばれた夫婦と家族の愛の物語だった――。



## ～主題歌「何日君再来」高畠充希～

主題歌には、朋子と吾郎の縁をつなぐ重要な楽曲として登場する歌謡曲「何日君再来」を起用。原曲は、1937年に上海で製作された映画『三星伴月』の挿入歌で、当時の日本でも空前の大ヒットとなった。日本語での曲名は「いつの日君帰る」。テレサ・テンをはじめ、多くの歌手によってカバーされ、長年多くの人に親しまれた名曲である。この楽曲の日本語バージョンを、NHK連続テレビ小説「ごちそうさん」で披露した歌声で一躍注目を集め、「とと姉ちゃん」ではヒロインを務めた高畠充希が担当。戦中から現代をつなぐ壮大なストーリーを締めくくるに相応しい、芯のある澄んだ歌声で感情豊かに歌い上げます。

